

認知症対策研究・支援事業

認知症高齢者の家族介護者支援策の効果的な実施に関する  
研究等事業

平成 27 年度 実施報告書

平成 28 年 3 月

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

# 目次

I. 概要	2
II. 目的	3
III. 家族の負担軽減を図る事業の調査・分析	4
IV. 家族支援教室従事者のための研修会	12
資料1 認知症を持つ人の家族介護者を対象とした介護に関するニーズ調査票	13
資料2 平成27年度認知症家族介護者教室等実施状況（平成28年1月調査）	19
資料3 アンケート票の回収（市町村別）	21
資料4 アンケート調査の結果（市町村別）	23
資料5 家族支援教室従事者のための研修会（当日資料の抜粋）	138

## I. 概要

認知症高齢者を介護する家族に対しては、認知症の知識や介護技術の面だけでなく、精神面も含めた様々な支援が必要であり、市町村が実施する家族介護者支援が効果的に実施されるよう支援を行う必要がある。

認知症は原因となる病気によって特徴的な症状や行動特徴があり、その症状に応じた対応方法を介護者が理解し習得できるようにすることが必要である。そこで愛知県の認知症の家族介護者の生活状況や負担感を把握するためアンケート調査を行った（平成 27 年 11 月に実施）。また、効果的な認知症の家族介護者支援を普及させるため、実施方法についての研修会を実施した（平成 27 年 9 月 3 日に実施）。

介護者の特性、認知症をもつ人の特性、介護状況の現状を調査するアンケート調査を、愛知県の 52 市町村で行われた家族支援事業（家族教室・カフェ）に参加した者を対象として行った（回収率は約 25%）。アンケートの結果から、以下の現状・課題が明らかになった。

- ① 主たる介護者は配偶者、子供であり、女性が 70%を占めている。約 2/3 は認知症をもつ人と同居、約 1/3 は仕事を持ちながら介護していた（仕事の形態は約半数でパートである）。介護者の主観的健康観は概ね 50%程度であった。
- ② 認知症の確定診断を受けたものが 90%以上、80%以上が継続通院を行っていた。本調査の回答者は、認知症にかなり理解のある介護者と思われた。
- ③ 認知症の告知は、約 60%で行なわれていた。認知症の症状については、記憶障害、意欲低下・昼寝に加え、尿失禁が多かった。これらの症状・症候は、介護負担の原因になるものであり、啓発内容として重要である。
- ④ 要介護 1～2 が全体の約半数、介護年数が 4 年程度であり、比較的 ADL の保たれた認知症ステージが多いと考えられた。この病期では、多くの介護が必要であり、一日平均介護時間も 6 時間程度にのぼった。介護者には相応の負担が生じていること想定された。
- ⑤ 認知症に関する情報・知識を得る源は、マスメディアが最多であり、医療や介護専門職（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）、地域での家族教室、親族や近隣、友人等、認知症介護経験者、介護者のつどいが多かった。回答者はこれらの情報にある程度満足しており、活用できていると答えた。マスメディアによる啓発、医療施設や地域包括センターなどでの啓発活動、個人的なつながりによる私的な連携の場を、総合的に整備することが必要であろう。
- ⑥ また今後、認知症に理解が十分ではない者に対する情報発信も重要と思われた。

## Ⅱ. 目的

認知症高齢者を介護する家族に対しては、認知症の知識や介護技術の面だけでなく、精神面も含めた様々な支援が必要であり、市町村が実施する家族介護者支援が効果的に実施されるよう支援を行う必要がある。

認知症は原因となる病気によって特徴的な症状や行動特徴があり、その症状に応じた対応方法を介護者が理解し習得できるようにすることが必要である。そこで愛知県の認知症の家族介護者の生活状況や負担感を把握するためアンケート調査を行った。この調査により認知症をもつ人のご家族の介護の実態、負担感、介護に関する要望等が明らかになり、市町村等で実施している家族介護者教室等の支援事業に役立てたい。

また、効果的な事業の実施方認知症の家族教室やカフェを普及させるために、そのノウハウを提示する研修会を実施した。

### Ⅲ. 家族の負担軽減を図る事業の調査・分析

#### 1. アンケート調査票の作成（資料1）

国立長寿医療研究センターの認知症家族教室メンバーが、以下の3部から構成される調査票を作成した。約30分の回答時間を想定した。

- ① 介護者の特性（年齢・性別・居住状態・労働状態・主観的健康観）
- ② 認知症をもつ人の特性（年齢・性別。居住状態・受診行動・告知・症状）
- ③ 介護状況（介護内容・介護時間・介護保険の利用・情報収集と活用・自由記載）

#### 2. 配布場所と部数

愛知県下52市町村で行われた家族支援事業（家族教室・カフェ：資料2）に参加した者を対象として、約2000部のアンケート調査票を配布した。

#### 3. アンケートの回収と解析

2016年3月末までに522部の返送（郵便）があった。市町村別の回収数を資料3に示した。これらのデータは電子データに登録し、統計解析を行った。

#### 4. 解析結果（全体解析）

##### ① 介護者の特性

- 1) 年齢：65.1±11.6 歳
- 2) 性別：男性 27.6% 女性 70.1%
- 3) 被介護者：

	n	%
両親	197	37.7
義理の両親	95	18.2
配偶者	207	39.7
兄弟	10	1.9
実の子供	2	0.4
その他	10	1.9
無回答	15	2.9
全体	522	100.0

- 4) 居住状態：同居 62.3%、同居していない 36.6%
- 5) 労働状態：仕事あり 33.1%、なし 66.5%
- 勤務形態：

	n	%

正規勤務（フルタイム）	39	22.5
非常勤勤務（パート）	76	43.9
在宅勤務・自営	38	22.0
不定期	14	8.1
その他	4	2.3
無回答	2	1.2
非該当	349	
全体	173	100.0

#### 6) 主観的健康観

身体的な状態：6.1±2.4（11.5点満点）

精神的な状態：5.9±2.6（11.5点満点）

#### 小括① 介護者の特性

これまでの調査と同様に、主たる介護者は配偶者、子供であり、女性が70%を占めていた。約2/3で認知症をもつ人との同居があり、約1/3が仕事を持ちながら介護していた。仕事の形態は約半数でパートである。介護者の主観的健康観は概ね50%程度であった。

#### ② 認知症をもつ人の特性（年齢・性別。居住状態・受診行動・告知・症状）

1) 年齢：81.5±8.6歳

2) 性別：男性 33.0% 女性 62.6%

3) 居住状態：

どこで生活しているか

	n	%
自宅（高齢者専用住宅含む）	398	76.2
ショートステイ	18	3.4
小規模多機能施設	6	1.1
グループホーム	45	8.6
老人保健施設	9	1.7
特別養護老人ホーム	38	7.3
医療機関	12	2.3
無回答	26	5.0
全体	522	100.0

誰と生活しているか

	n	%

1人（独居）	48	12.1
配偶者（妻・夫）	211	53.0
実の子供	182	45.7
義理の子供	47	11.8
両親	4	1.0
義理の両親	8	2.0
兄弟	6	1.5
孫	56	14.1
その他	6	1.5
無回答	8	2.0
非該当	124	
全体	398	100.0

4) 認知症の受診について

認知症について受診したことがあるか：あり 79.9%、なし 17.6%

確定診断はついているか：はい 92.1%、いいえ 5.8%

診断名：

	n	%
MCI（軽度認知障害）	42	10.9
アルツハイマー型認知症	253	65.9
血管性認知症	26	6.8
レビー小体型認知症	40	10.4
前頭側頭型認知症	23	6.0
若年性認知症	2	0.5
その他	30	7.8
無回答	8	2.1
非該当	138	
全体	384	100.0

確定診断からの年数：4.4±3.1 年

介護年数：4.6±2.1 年

認知症のための通院を継続：はい 80.7%、いいえ 17.2%

5) 告知について

診断名を伝えたか：はい 61.7%、いいえ 33.9%、迷っている 3.1%

認知症をもつ人は診断名を知っているか：はい 25.0%、いいえ 43.2%、何となく 30.7%

6) 認知症症状の頻度

(0:まったくない、1:ほとんどない、2:時々ある、3:よくある、4:常にある)

	階級値	SD
同じことを何度も何度も聞く	2.83	1.24
よくものを無くしたり、置き場所を間違えたり、隠したりする	2.54	1.32
日常的なものごとに関心を示さない	2.54	1.22
昼間寝てばかりいる	2.18	1.29
同じ動作をいつまでもくりかえす	1.84	1.27
口汚くののしる	1.19	1.20
明らかな理由なしに、ものをためこむ	1.48	1.32
食べ過ぎる	1.57	1.27
尿失禁する	2.06	1.41
特別な理由がないのに夜中に起きだす	1.53	1.33
特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	1.07	1.10

### 小括② 認知症をもつ人の特性

認知症をもつ人は、1:2で女性が多い。今回の調査では、約75%が居宅で生活していた。認知症の確定診断を受けたものが90%以上、また80%以上の者が継続通院を行っていた。これらはかなり高率であり、今回の回答者は、認知症にかなり理解のある介護者であることが伺われる(バイアス)。

認知症の告知に関しては、約60%で本人に告げたというが、実際に理解している者は25%で留まった。認知症の症状については、記憶障害、意欲低下・昼寝に加え、尿失禁が多かった。これらの症状・症候は、介護負担の原因になるものであり、対応方法についての啓発が重要と考えられた。

### ③ 介護状況

#### 1) 介護内容

	n	%
見守り	327	62.6
声かけ(誘導・促し含む)	312	59.8
つきそい(外出等)	352	67.4
準備・片付け(食事、排泄、整容など日常生活動作)	311	59.6
部分的支援(食事、排泄、整容など日常生活動作)	231	44.3
全面的支援(食事、排泄、整容など日常生活動作)	120	23.0
家事の実施(そうじ、洗濯、調理、買い物等)	319	61.1
安否確認(電話)	79	15.1

安否確認（訪問）	98	18.8
金銭管理（銀行での手続きも含む）	356	68.2
行政手続き（税金、年金、健康保険、介護保険など）	387	74.1
医療的処置の実施（服薬管理、インシュリン注射、血糖測定、バルーンカテーテルの管理、吸引の管理、経管栄養の管理等）	260	49.8
施設サービス利用のための送迎	92	17.6
病院のつきそい（送迎含む）	391	74.9
その他	49	9.4
無回答	23	4.4
全体	522	100.0

- 2) 介護時間（一日当たりの平均時間）：5.81±6.24 時間  
3) 介護保険を利用しているか：はい 88.5%、いいえ 9.0%

要介護認定の結果

	n	%
要支援 1	28	6.1
要支援 2	40	8.7
要介護 1	128	27.7
要介護 2	95	20.6
要介護 3	80	17.3
要介護 4	43	9.3
要介護 5	36	7.8
申請中	4	0.9
分からない	0	0.0
無回答	8	1.7
非該当	60	
全体	462	100.0

- 4) 介護保険制度以外で、介護を手伝う人がいるか：いる 56.7%、いない 37.7%  
5) 情報収集と活用

認知症に関する知識・情報を得る場所があるか：ある 88.5%、ない 9.0%

どこで知識・情報を得ているか

	n	%
地域で実施中の家族教室	188	40.7
愛知県家族の会	27	5.8

病院で実施中の家族教室	14	3.0
医療や介護専門職（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）	226	48.9
かかりつけ医	134	29.0
認知症カフェ	54	11.7
介護者のつどい	152	32.9
ソーシャルネットワーク仲間（Mixi、Face Book、Twitter 等）	11	2.4
マスメディア（新聞・雑誌・テレビ）	263	56.9
専門書	59	12.8
講演会	95	20.6
親族や近隣、友人等、認知症介護経験者	175	37.9
その他	39	8.4
無回答	2	0.4
非該当	60	
全体	462	100.0

得た情報に満足しているか

	n	%
全く満足していない	0	0.0
あまり満足していない	52	11.3
少し満足している	92	19.9
ある程度満足している	237	51.3
非常に満足している	36	7.8
無回答	45	9.7
非該当	60	
全体	462	100.0

得た情報をどの程度活用しているか

	n	%
全く活用していない	3	0.6
あまり活用していない	53	11.5
少し活用している	95	20.6
ある程度活用している	184	39.8
非常に活用している	41	8.9
無回答	86	18.6
非該当	60	
全体	462	100.0

### 小括③ 介護状況

本調査の被介護者では、要介護1～2が全体の約半数を占めていた。介護年数も4年程度であり、比較的ADLの保たれた認知症ステージであると考えられる。このため多くの介護内容が必要になっており、一日平均介護時間も6時間程度であった。介護者にはかなりの負担感が生じていることが予想される。

認知症に関する情報・知識を得る源は、マスメディア（新聞・雑誌・テレビ）が最多であり、医療や介護専門職（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）、地域で実施中の家族教室、親族や近隣、友人等、認知症介護経験者、介護者のつどいが続いた。また、回答者はこれらの情報にある程度満足しており、活用できていると答えた。

認知症は多くの人々の関心領域であり、マスメディアの影響力は大きい。また、医療施設や地域包括などでの啓発活動を含めた公的な情報源に加え、個人的なつながりによる私的な連携も情報源として重要であることを示した。

今回の回答者は認知症に理解のある者であると思われるが、今後、理解が十分ではない者に対する情報発信も重要と思われた。

## 5. アンケート調査のまとめ

介護者の特性、認知症をもつ人の特性、介護状況の現状を調査するアンケート調査を、愛知県の52市町村で行われた家族支援事業（家族教室・カフェ）に参加した者を対象として行った。522部の回答があり、回収率は約25%であった。

- ✓ 介護者の特性では、主たる介護者は配偶者、子供が多く、女性が70%を占めた。約2/3で認知症をもつ人と同居しており、約1/3は仕事を持ちながら介護していた（仕事の形態は約半数でパートである）。介護者の主観的健康観は概ね50%程度であった。
- ✓ 今回の調査では、認知症の確定診断を受けたものが90%以上、80%以上が継続通院を行っていた。つまり、認知症にかなり理解のある介護者が回答したと思われる。
- ✓ 認知症の告知は、約60%で行なわれていた。認知症の症状については、記憶障害、意欲低下・昼寝に加え、尿失禁が多かった。これらの症状・症候は、介護負担の原因になるものであり、啓発内容として重要であろう。
- ✓ 本調査では、要介護1～2が全体の約半数、介護年数が4年程度であり、比較的ADLの保たれた認知症ステージであると考えられた。多くの介護が必要になる時期であり、一日平均介護時間も6時間程度であった。介護者にはかなりの負担感が生じていることが予想された。
- ✓ 認知症に関する情報・知識を得る源は、マスメディアが最多であり、医療や介護専門職（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等）、地域で実施中の家族教室、親族や近隣、友人等、認知症介護経験者、介護者のつどいが多かった。回答者はこれらの情報にある程度満足しており、活用できていると答えた。①マスメディアによる適正な啓発、②医療施設や地域包括センターなどでの啓発活動、③個人的なつながりに

よる私的な連携の場、が情報源として重要であろう。

- ✓ 今回の回答者は認知症に比較的理解のある者と思われるが、理解が十分ではない者に対する情報発信も重要と思われた。

## 6. 認知症家族介護者教室等の現地調査

市町村が実施している認知症家族介護者教室等の実施状況、及び教室参加者の意見や思い等を把握するため、3か所の事業を現地調査した。調査した内容については、次年度以降の本事業に反映していきたい。

### <現地調査>

市名	事業名	日時・場所	参加者	主な内容
瀬戸市	せとらカフェ (認知症カフェ)	2月25日(木) 午前9時～12時 CAFÉかりんか (瀬戸市北脇町239-7)	認知症の人、家族 地域住民 ケアマネジャー等	個別相談 交流会 地域交流
清須市	介護者のつどい	3月9日(水) 午後1時30分～3時 特養ペガサス春日 (清須市春日新町105)	家族介護者 介護経験者 施設職員 等	介護者同士の交流 情報交換
新城市	認知症カフェ	3月15日(火) 午後2時～3時30分 グループホーム好日庵 (新城市副川大貝津13)	<認知症カフェ> 認知症の人、 家族、入所者等 <家族交流会> 家族介護者 等	レクレーション ミニ講座 座談会

#### IV. 家族支援教室従事者のための研修会

主 催：愛知県

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

対象者

- ・市町村・地域包括支援センター等職員
- ・医療機関（認知症疾患医療センター等）において認知症家族介護者支援に携わる者等  
約150人

日 時

平成27年9月3日（木）午後1時30分～4時30分

場 所

ウィンクあいち 10階 1002会議室  
名古屋市中村区名駅4-4-38

内 容（資料5）

時間	項目	講師等
13:30	あいさつ・オリエンテーション	愛知県高齢福祉課
13:40 ～15:10	講義 ・認知症の理解と家族支援の必要性 ・国立長寿医療研究センターの家族支援の取組 （「認知症はじめての一步 ―ご本人、ご家族のための教室テキスト―」の紹介）	国立長寿医療研究センター もの忘れセンター長 櫻井 孝 氏 認知症看護認定看護師 山田 久美 氏
15:10 ～15:40	講話 ・認知症のご本人とご家族の思い ・認知症の人と家族の会の取組	認知症の人と家族の会 愛知県支部 代表 尾之内直美 氏
15:40 ～16:10	取組報告 ・東郷町における認知症家族介護者支援の取組	東郷町長寿介護課 係長 森本 美香 氏
16:10 ～16:30	意見交換・質疑応答	



Q7：あなたの精神状態は、いかがでしょうか。ライン上であてはまる段階に○印をしてください。

0  10  
非常に状態が悪い 非常に状態がよい

II. 認知症を持つ人について、おたずねします。

Q8：年齢をご記入ください。 \_\_\_\_\_ 歳

Q9：性別について、あてはまる番号に○印をしてください。 1 男性    2 女性

Q10：認知症を持つ人は現在、どこで生活されていますか。あてはまる数字に○印をしてください。

- |                 |             |           |
|-----------------|-------------|-----------|
| 1 自宅（高齢者専用住宅含む） |             |           |
| 2 ショートステイ       | 3 小規模多機能施設  | 4 グループホーム |
| 5 老人保健施設        | 6 特別養護老人ホーム | 7 医療機関    |

↓

**「1 自宅（高齢者専用住宅含む）」と答えた方**におたずねします。

認知症を持つ人は、どなたと生活されていますか。あてはまる数字すべてに○印をしてください。

- |                            |            |        |         |
|----------------------------|------------|--------|---------|
| 1 1人（独居）                   | 2 配偶者（妻・夫） | 3 実の子供 | 4 義理の子供 |
| 5 両親                       | 6 義理の両親    | 7 兄弟   | 8 孫     |
| 9 その他（具体的にご記入ください： _____ ) |            |        |         |

Q11：認知症について、受診したことがありますか。

1 あり    2 なし

↓

(A) **「1 あり」と答え方**に、おたずねします。

「MCI（軽度認知障害）」もしくは「認知症」の確定診断は、ついていますか。

あてはまる数字に○印をしてください。

1 はい → **診断名につき、あてはまる番号に○印をしてください。**

- |                           |               |          |
|---------------------------|---------------|----------|
| 1 MCI（軽度認知障害）             | 2 アルツハイマー型認知症 | 3 血管性認知症 |
| 4 レビー小体型認知症               | 5 前頭側頭型認知症    | 6 若年性認知症 |
| 7 その他（具体的にご記入ください _____ ) |               |          |

2 いいえ

(B) **「(A) で「1 はい」と答え方**に、以下、5つおたずねします。

問1：確定診断がついてから現在まで、何年ほど経過しましたか。 約 \_\_\_\_\_ 年

問2：現在、認知症の加療のために、通院を継続していますか。  1 はい  2 いいえ

問3：認知症を持つ人に診断名や内容を伝えましたか。  1 はい  2 いいえ  3 迷っている

問4：認知症を持つ人は、診断名や内容を知っていますか。  1 はい  2 いいえ  3 何となく

問5：認知症の主な症状の出現程度について、おたずねします。a～kについて、それぞれ0～4のうち、あてはまる程度の番号に○印をしてください。

【選択肢】 0：まったくない、1：ほとんどない、2：時々ある 3：よくある、4：常にある

	質問項目	程度の選択肢
a	同じことを何度も何度も聞く	0・1・2・3・4
b	よくものを無くしたり、置き場所を間違えたり、隠したりする	0・1・2・3・4
c	日常的なものごとに関心を示さない	0・1・2・3・4
d	昼間寝てばかりいる	0・1・2・3・4
e	同じ動作をいつまでもくりかえす	0・1・2・3・4
f	口汚くののしる	0・1・2・3・4
g	明らかな理由なしに、ものをためこむ	0・1・2・3・4
h	食べ過ぎる	0・1・2・3・4
i	尿失禁する	0・1・2・3・4
j	特別な理由がないのに夜中に起きだす	0・1・2・3・4
k	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0・1・2・3・4

### Ⅲ. あなたの介護状況、介護や認知症に対する思いについて、おたずねします。

Q12：あなたが主に担っている介護内容について、あてはまる番号すべてに○印をいれてください。

- 1 見守り      2 声かけ（誘導・促し含む）      3 つきそい（外出等）
- 4 準備・片付け（食事、排泄、整容など日常生活動作）
- 5 部分的支援（食事、排泄、整容など日常生活動作）
- 6 全面的支援（食事、排泄、整容など日常生活動作）
- 7 家事の実施（そうじ、洗濯、調理、買い物等）      8 安否確認（電話）      9 安否確認（訪問）
- 10 金銭管理（銀行での手続きも含む）      11 行政手続き（税金、年金、健康保険、介護保険など）
- 12 医療的処置の実施（服薬管理、インシュリン注射、血糖測定、バルーンカテーテルの管理、吸引の管理、経管栄養の管理等）
- 13 施設サービス利用のための送迎      14 病院のつきそい（送迎含む）

15 その他(具体的にご記入ください: )

Q13 : Q11で○印をいれた介護について、**1日あたり要している平均時間**はどの程度でしょうか。  
\_\_\_\_\_時間程度

Q14 : 現在、介護保険制度を申請されていますか。

1 はい      2 いいえ

↓

**「1 はい」と答えた方**に、おたずねします。

要介護認定の結果はどの程度でしょうか。あてはまる数字に○印を記入してください。

(区分変更中の方は、区分変更前に該当するものを選択してください)

1 要支援1	2 要支援2	3 要介護1	4 要介護2	5 要介護3
6 要介護4	7 要介護5	8 申請中	9 分からない	

Q15 : 現在、介護保険制度など、制度の支援以外であなたの介護を手伝ってくれる人がいますか。

1 いる      2 いない

↓

**「1 いる」と答えた方**に、おたずねします。

どなたが、どのようなサポートをしてくださっていますか。枠の中に簡単に記入してください。

(例) いとこが、私の愚痴をきいてくれる。近所のAさんが、私の買い物中に夫が外に出ないようにみていてくれる。息子が経済的に助けてくれる。

Q16 : あなたは、「認知症」に関する知識や情報を得ている場所がありますか。

1 あり      2 なし

↓

**「1 あり」と答えた方**に、以下、3点おたずねします。

問1 : どこで、知識や情報を得ていますか。当てはまる数字すべてに○印を記入してください。

1 地域で実施中の家族教室	2 愛知県家族会	3 病院で実施中の家族教室
4 医療や介護専門職(地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等)	5 かかりつけ医	
6 認知症カフェ	7 介護者のつどい	8 ソーシャルネットワーク仲間(Mixi、Face Book、Twitter等)
9 マスメディア(新聞・雑誌・テレビ)	10 専門書	
11 講演会	12 親族や近隣、友人等、認知症介護経験者	

13 その他（具体的にご記入ください： \_\_\_\_\_）

**問2**：得た知識や情報に対し、あなたはどの程度満足していますか。

あてはまる数字に○印を記入してください。

0	1	2	3	4
全く満足していない	あまり満足していない	少し満足している	ある程度満足している	非常に満足している

満足していない理由をご記入ください。

満足している点をご記入ください。

**問3**：得た知識や情報をあなたはどの程度、活用していますか。

0	1	2	3	4
全く活用していない	あまり活用していない	少し活用している	ある程度活用している	非常に活用している

活用していない理由をご記入ください。

活用している点をご記入ください。

**Q17**：あなたが介護で工夫している点をご記入ください

**Q18**：あなたが介護で困っている点をご記入ください。

**Q19**：認知症に関する医療サービスや医療者への要望や意見をご自由にご記入ください。

**Q20**：認知症に関する介護サービスへの要望や意見をご自由にご記入ください。

**Q21**：認知症に対する、世間(社会全体)の受け入れや理解等への要望や意見をご自由にご記入ください。

どうもおつかれさまでした。

アンケートへのご協力どうもありがとうございました。

調査元：国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

協力：愛知県健康福祉部高齢福祉課

## 資料 2

## 平成 27 年度認知症家族介護者教室等実施状況(平成 28 年 1 月調査)

	市町村名	家族介護者支援教室等	認知症カフェ
1	名古屋市	1	65
2	豊橋市	4	
3	岡崎市	4	6
4	一宮市	2	1
5	瀬戸市	1	1
6	半田市	3	1
7	春日井市	1	
8	豊川市	1	1
9	津島市	2	1
10	碧南市	2	
11	刈谷市	2	2
12	豊田市	2	
13	安城市	1	
14	西尾市	1	2
15	蒲郡市	2	1
16	犬山市	4	
17	常滑市	3	2
18	江南市	2	
19	小牧市	2	
20	稲沢市	1	
21	新城市		1
22	東海市	5	1
23	大府市	1	
24	知多市	1	1
25	知立市	2	1
26	尾張旭市		1
27	高浜市	2	1
28	岩倉市		1
29	豊明市	2	
30	日進市	4	1
31	田原市	1	2

32	愛西市	1	
33	清須市	3	2
34	北名古屋市	3	2
35	弥富市	1	1
36	みよし市	3	1
37	あま市	2	1
38	長久手市	1	1
39	東郷町	3	1
40	豊山町	1	
41	大口町		
42	扶桑町	3	
43	大治町	1	1
44	蟹江町	2	
45	飛島村	1	
46	阿久比町	1	
47	東浦町		2
48	南知多町		
49	美浜町		
50	武豊町	2	
51	幸田町		1
52	設楽町	1	
53	東栄町		
54	豊根村	1	
	計(事業数・箇所数)	89	106
	実施市町村数	45	30

## 資料3

## アンケート票の回収（市町村別）

No.		n	%
1	名古屋市	122	23.4
2	豊橋市	24	4.6
3	岡崎市	132	25.3
4	一宮市	7	1.3
5	瀬戸市	0	0.0
6	春日井市	13	2.5
7	豊川市	1	0.2
8	津島市	5	1.0
9	刈谷市	6	1.1
10	豊田市	41	7.9
11	西尾市	9	1.7
12	蒲郡市	5	1.0
13	犬山市	2	0.4
14	常滑市	17	3.3
15	江南市	8	1.5
16	小牧市	3	0.6
17	稲沢市	6	1.1
18	新城市	1	0.2
19	知多市	8	1.5
20	高浜市	1	0.2
21	岩倉市	10	1.9
22	日進市	2	0.4
23	田原市	23	4.4
24	愛西市	4	0.8
25	清須市	9	1.7
26	弥富市	4	0.8
27	みよし市	0	0.0
28	あま市	13	2.5
29	長久手市	7	1.3
30	豊山町	1	0.2
31	扶桑町	14	2.7
32	大治町	0	0.0

33	阿久比町	9	1.7
34	東浦町	5	1.0
35	幸田町	4	0.8
36	設楽町	6	1.1
	無回答	0	0.0
	全体	522	100.0